

第5回流山市環境審議会第2期環境行動計画策定部会議事概要

1. 日時

平成21年9月1日(火) 13:30～18:10

2. 場所

流山市役所304会議室

3. 出席

(1) 委員

伊藤委員、新保委員、高谷委員、平手委員、松島委員、吉田委員

(2) 事務局

宇仁菅部長、飯泉課長、あべ木課長補佐、阿部主査、
伊藤主任主事、株式会社建設技術研究所

4. 資料

- 資料1 (仮称)ストップ温暖化ながれやま2020(にこにこ)プラン 部会素案
- 資料2-1 (仮称)生物多様性ながれやま戦略部会素案
- 資料2-2 (仮称)生物多様性ながれやま戦略資料編
- 資料3 今後の環境行動計画について
- 資料4 今後のスケジュールについて
- 参考資料1 第2期流山市環境行動計画策定にあたっての事業者アンケート結果
- 参考資料2 8月に実施した意見募集結果

5. 議事概要

(1) 地球温暖化対策実行計画について

まとめ

・二酸化炭素排出量について

家庭・事業所における自動車使用(ガソリン消費)に伴う二酸化炭素排出量の扱い方を検討する。

・目標設定について

削減目標値は、基本的に総量とする。また、家庭部門・業務部門の削減目標(1世帯当たり・延床面積の削減量)については、今後「環境家計簿」等を利用し、効果量をモニタリングすることとする。

家庭部門の削減目標は、「モデル世帯」における削減量を示すなど、市民一人ひとりの取組による効果量が見える「指標」が望ましい。

個別意見

- ・P6他、二酸化炭素排出量等において、「部門」の具体的な内容に

いて説明を追加して欲しい。

- ・ P 6 他、部門別の二酸化炭素排出量について、家庭・事業所での自動車使用（ガソリン消費）に伴うものについては、運輸部門ではなく家庭・業務部門等として取り扱った方がわかりやすい。
- ・ P 1 1、二酸化炭素排出量の将来推計で、2012年度の業務部門の増減率が1%減となっており、実感とそぐわない。
- ・ P 1 3、削減効果量について、市独自によるものと国によるものとで明確に区分けすることは困難ではないか。市独自の施策による削減効果は、国の施策による削減効果に「追加となるもの」といった位置づけにした方がよい。
- ・ P 1 3、市独自及び国による削減効果量について、算定根拠を明示して欲しい。算定根拠はそれぞれ2012年度及び2020年度について明示して欲しい。
- ・ P 1 3、市独自の施策による削減効果量については、二酸化炭素削減量だけでなく、「参加率（実施率）」といった努力量を示すことも重要である。
- ・ P 1 4、家庭部門の目標設定については、消費者物価指数や環境家計簿等を用いた「積み上げ法」によることが望ましい。
- ・ P 1 4、家庭での二酸化炭素排出量には、自動車使用（ガソリン消費）に伴う二酸化炭素排出量が含まれるのが一般的である。
- ・ P 1 4、家庭部門の目標設定について、「環境家計簿」の取組結果との統合が必要である。「環境家計簿」には自家用車の取組が含まれることに留意する必要がある。
- ・ P 1 4、今後、流山市は人口が増加する。この前提のもとに、適切に目標を設定する必要がある。総量削減目標ではなく、1世帯当たりの削減目標が妥当ではないか。
- ・ P 1 4、家庭部門の削減目標は、市民一人ひとりの取組による効果量がわかる「指標」が望ましい。市民の取組の指針として。例えば、「モデル世帯」における削減量を示す、など。
- ・ P 1 5、中期目標についても、短期目標と同様に「分野別」の目標値を記載した方がよい。
- ・ P 2 4 他、各プロジェクトにおいて、今後の進行管理を行っていく上で、「課題点」を整理し、記載しておいた方がよい。
- ・ P 3 0、二酸化炭素吸収源倍増作戦で、現存する森林の吸収量も勘案すべき。また、人から排出される二酸化炭素についても言及すべきである。

（2）生物多様性地域戦略について

まとめ

- ・重点地区について
 - 記載する「指標種」は、当該地区を代表する（典型的な）種とする。どこにでもいるような種は示さない。
 - 「外来種」は、駆除すべきものを基本とする。
 - 「希少種」は、繁殖しているものを基本に記載する。ただし、盗掘の恐れがあるため、公開方法・掲載方法を検討する。
 - 「目標種」は、今後検討を進める。
 - P 1 4、位置が異なるため修正する。
- ・重点地区を選定するまでの考え方について
 - P 1 1で拠点となる緑が候補地区で選定されていない。整合を図ること。
 - P 1 1は、概ねの位置を示すよう標記を工夫すればよい。
- ・その他
 - 生物多様性アドバイザーの解説を示す。
 - 市（行政）の取り組み姿勢を明確にする。

個別意見

- ・ P 2、戦略の位置づけ、第3次生物多様性国家戦略は、生物多様性条約に基づき策定されている。生物多様性基本法は後追いである。文章、図を修正するほうが良い。
- ・ 案、受け身の文章は適切でない。「多様な生きものを育む多様な環境」とするほうが良い。
- ・ P 6、ながれやま戦略の流れ、今の緑と重点地区のつながりを表現するほうが良い。
- ・ P 7・P 8、地球温暖化だけでなく、ヒートアイランドも併記するほうが良い。
- ・ P 1 5～、指標種、「代表する典型的な種」という名称の方が良い。また、森の中で見られる種をもう少し加えてはどうか。
- ・ P 2 1、巻ガイ、具体的な種名を書くか、“巻貝”とするほうが良い。
- ・ P 2 5、ヒメジオンとあるが、「ヒメシオン」の誤りである。
- ・ 資料編、流山市の特性を地区別に示す必要がある。
- ・ 前回資料では、大堀川の目標として「サケの遡上」とあったが、削除した、これでよいか。
- ・ 近くまで遡上してきたため、提案している。
- ・ 重点地区・地点、大きく2つに分けることとした。
- ・ 大堀川は流域が異なっているため、市野谷の森グループとは異なると考えられる。
- ・ P 1 4、地点がずれている。基盤図とともに更新して頂きたい。
- ・ 希少種と指標種の考え方を整理する必要がある。

- ・ 定義を決めて、会長に相談させて頂きたい。
 - ・ 目標種は進行管理の中で、決めて行ければよいと考える。外来種は駆除対象種を選定し、現状で不明の箇所は空欄でよいと考える。
 - ・ 将来の姿について絞り込みたいが、いかがか。
 - ・ 案 と案 の折衷案で良いのではないか。
 - ・ P 1 ・ P 2 が読み進みにくいと感じる。
 - ・ P 1 1 ~ 1 2 にかけて、重点地区の選び方、候補地区となる理由を明確にするほうが良いと考える。
 - ・ 重点地区の特性において、現在確認されている種を示すべきである。
 - ・ 資料編に加えます。
 - ・ 重点地区におけるモニタリング調査項目についても相談させて頂きたい。
 - ・ 柏市の事例では、モニタリング種を選定していたようである。
 - ・ 生物多様性アドバイザーについて、用語解説があるほうが分かりやすい。
 - ・ 推進体制において、市はサポート役となっているが、主体的に参画して頂きたい。P 3 2 にも市の役割を示して欲しい。
 - ・ 市では、協働の視点をもち、取り組みを行っていくことが重要と考えている。
 - ・ 生態系に係るデータを蓄積することとなっているが、データの帰属はどなるのか、明確にする必要がある。共有すべきである。
- (3) 環境行動計画について
- ・ 環境マネジメントシステムは本来このようなシステムであるので、それを活用する案に賛成である。
- (4) 今後のスケジュールについて
- ・ 特に意見無し。